

令和7年3月22日 開催

聴くオフ・ミーティング報告書

テーマ 20代から始めてみよう 杉並の地域づくり
～地域と関わるきっかけについて考える～

区では、区政への区民参加の仕組みづくりを進めています。その取組の一つとして、身近な行政課題について、区長と区民が直接意見交換をする区政を話し合う会「聴くオフ・ミーティング」を開催しています。

令和7年3月22日は、「20代から始めよう 杉並の地域づくり～地域と関わるきっかけについて考える～」をテーマに、一般公募と、無作為抽出した2000名の区民の中から参加していただいた39名の方と話し合いました。

区長から

今回のテーマは、若い世代からシニアの皆さんまで、いろいろな人たちと地域づくりについてお話するため、あえて「20代から～」と題しています。今までも、区には地域活動に関するたくさんの取組があり、それぞれの地域では、町会や自治会が中心となって活動しています。地域では、そこに暮らす一人ひとりが主人公であり、皆さんの多様な活動が、住みやすい街をつくる原動力になります。若手プレイヤーの皆さんのお話も承りながら、地域活動の踏み出すきっかけをはじめ、みんなで地域を作っていくということを一緒に考えていきたいと思います。



担当課からの説明



皆さんが日常生活を送る中で防犯・防災や子育て等様々な「困りごと」や「ニーズ」を感じていると思います。そうしたことの解決に向けて、多種多様な地域の団体が活動しています。皆さんが地域において安心して心地よく暮らせるのも、周りの沢山の団体が精力的に地域における課題を自主的に解決していることもひとつの要因なのではないでしょうか？今後、行政としては、より多くの方々が様々な形で地域と関わり、そうした方々が活動している地域の団体等を区の対等なパートナーとして、地域における諸課題を解決していくことができる社会を目指しています。

本日は、地域と皆さんをつなぐ部分、皆さんが身の回りや地域のことで感じている・考えている部分、地域において活動するのに躊躇している・気持ちが向かない部分や逆に心が惹かれる部分について、話し合いができればと考えております。皆さんが、地域に関わる「きっかけ」とは、こういったものなのでしょうか？実際に区民にとったアンケートで興味深い結果が出ています。昨年のすぎなみフェスタにおいて、「町会・自治会活動のお手伝いを頼まれたら、やってみようと思いますか？」の問いに、8割強の方々がやってみようと思うといった少し驚く結果がでています。この結果が全てとは言いませんが、何か具体的な働きかけさえあれば、一歩踏み出せるかも？ということを表している数値ではないかと思います。地域に目を向けると、各々の興味のある分野で自由闊達に活動している若い方々が沢山います。そうした若手プレイヤー3名の方々に、具体的なお話をこの後お伺いします。地域づくりに関わっていくことで、新たな人とのつながりが生まれたり、新しい知識や経験を得ることや、自分の得意分野を活かして地域貢献ができたかもしれません。また、企画力やコミュニケーション力等のスキルアップを図ることができ、さらには地域に関する様々な情報を得ることもできます。しかし、地域に関わるきっかけは人それぞれです。そのため区では、きっかけとなる窓口・メニューを皆さんに提供し、積極的に応援しており、ニーズに応じて、是非利用していただければと思います。

本日、諸々のお話をしましたが、地域づくり・地域活動に踏み出すきっかけや、活動に参加しやすくなるために必要なこと等、幅広いご意見・アイデアをいただきたいと思います。



駄可笑屋敷(ダガシヤシキ)は、「こどもたちに多様な価値観と経験を届ける」ことを理念に活動している団体です。若者の力で地域のワクワクを創り出す『駄菓子屋』の立ち上げ及び運営を行うプロジェクトで、現在、方南町にて駄菓子屋兼子供の居場所を日々運営しています。私たちの大きな特徴は、100人を超える大学生メンバーのみで構成されており、地域に根差しながら、イベントの企画・運営・交渉などを自ら行っている点です。子供たちと一緒に創り上げることを大事にしており、圧倒的な子供目線に立ってコンテンツを作り上げることで、押し付けでなく自発的に地域に関わってもらうことを大事にしています。駄可笑屋敷を通して地域と子供たちが自然な形で関わり合いを持てることに、大きなやりがいを感じます。

実家を離れて一人暮らしを始めた頃、地域とのつながりがなくなり少し不安を感じていました。地域活動には興味があったものの、参加するきっかけも時間もなくて躊躇していた時、町会の広報誌がポストに入っていました。内容が思った以上に面白く参加してみようと思ったのが町会に入ったきっかけです。町会には行政や地域団体との信頼関係があり、何かを始める際に協力を得やすいという強みがあります。利益を出す必要がないためプレッシャーが少なく、町会費の予算も活用できます。少人数でもアイデアを形にしやすく、イニシアチブが取りやすいというメリットもあります。一方で、町会の認知度は高くなく若い世代の参加が少ないという課題も感じます。人それぞれ地域に求める理想像は違いますが、制約の中で地域全体を巻き込み盛り上げていけるのは、町会だからこそできることだと思います。仕事で地域に関わっていない人でも参加できるのも町会の魅力です。

デザインの方で地域をもっとおもしろくをモットーに「まち」と「人」、「人」と「人」をつなげて地域の関わりをデザイン、新しい価値と機会をつくり、地域みんなが主体となる「まちづくり」を目指しています。イベントでも地域課題でも、その地域の皆さんの手で実施、解決に至れるようサポートすることが私たちのポジションであり、地域の主体性を心がけています。商店街、町会を始め、地域に長らく根付くイベントなど、シニア世代が支える活動から次世代まで幅広く携わらせていただいておりますが、今回のテーマに合わせた例としましては、区在住在学の30歳以下のプロジェクトメンバーを募り、運動会を作る企画を行っています。運動会は地域の老若男女すべての方が参加できる形を想定し、障害のある方もメンバーとなって、どんなルールであれば一緒に楽しめるか、種目の面白さも損なわず、同世代で付度なく話し合う機会を設けています。今年も同じ取り組みを行いますので、興味がある方はぜひいらしてください。私たちはその地域と関わるきっかけをたくさん作っています。まず地域の入口として一緒にできることがあれば嬉しいです。



全体トークでは半円状の車座になり、参加者が一人ずつ自分の意見を発表した後、フリートークを行いました。以下は全体トークで出た主な意見です。

- 参加者 心の中に地域での活動をしてみたいという気持ちがあっても、なかなかきっかけがつかめないという人が多いと思います。きっかけを作ってあげることが必要だと感じた。
- 参加者 おやじネットワークの世話人をやっています。会のネーミングが良くないという意見もある中で、「会の楽しさを伝えるPRを」という貴重な意見をいただき、各会で共有したい。
- 参加者 ミーティングに参加して様々な活動があることをしました。自分でも子育てに関する情報をSNSで集めるだけでなく、いろいろなところに参加して情報を集めることが大事です。
- 参加者 グループトークでは、ターゲットを絞って情報を発信し共感してくれる人を集めてから、みんなで問題解決に取り組むという方法があるとの指摘がためになった。
- 参加者 いきなり町会に一人で参加するのはハードルが高いので普段の生活の中で知り合いを作り、地域の活動を紹介してもらうなどハードルを下げて参加の機会を得るというアイデアに共感しました。

- 参加者 地域活動の参加するきっかけとして、何か縁を感じるものがあれば踏み出せると感じました。
- 参加者 このミーティングでいろんなパンフレットを見たり、話しを聞くことで参加方法などがわかったので、地域活動への参加のいいきっかけになると感じました。
- 参加者 住んでいる地域をもとに町会への参加を呼び掛けるのではなく、具体的な行事を示し、関心を惹き呼びかけが必要。
- 参加者 みなさんが地域と繋がることで快適に暮らしていることを知り、マンネリ化した古い町会でも何か応援できないかという気持ちになった。
- 参加者 地域で活動している3人の話を聞いて情報発信の方法等に工夫を凝らしていることがわかりました。情報を受け取るリテラシーが育てばいいと思った。
- 参加者 杉並を好きになることがスタートだと気がきました。町内会を盛り上げたいので、まずはどのような町内会があるのか検索することから始めます。
- 参加者 いきなり行事に参加することは難しいので、企画の段階から参加できると、敷居も低くなるのではないかと、達成感も感じることができ案としていいのではないのでしょうか。

全体トーク



- 参加者 個人の興味と地域づくりを行う集団を結びつけるポータルサイトがあるといいです。
- 参加者 情報を欲しい側と情報を流したい側を結びつけるマッチングアプリが必要だと感じた。子供が参加できるイベント情報だとより利用価値が上がると思う。
- 参加者 まず、隣近所に誰が住んでいるかがわかるようにすることだと思う。そのためには、学校で町会に関する授業を行う。若い父兄が参加しやすい町会行事を増やす。オープンチャットを活用してイベント情報ばかりでなく困りごとなども話し合う場になればいいです。
- 参加者 町会の方からどんな人が参加してほしいとか、こんな人に手伝ってほしいとか、情報を的確に流すことが大事だと思う。そうすれば、手を挙げることができるのではないかと。
- 参加者 地域活動と聞いただけでハードルが高いと感じることがあると思う。スポット的な関わりとか、得意分野でのサポートなど、柔軟な関わりができるようにしてはどうか。
- 参加者 地域活動を行う方でも、どのような人手が足りないのか。どのくらいの時間が拘束されるのかなど具体的に情報を流すことが必要。そうすれば手伝う人もでてくると思う。
- 参加者 地域に関心のある方が多いことがこのミーティングでわかりました。地域を区切った狭い範囲での聴くオフ・ミーティングを開いてはどうか。身近に知り合いもでき地域活動に繋がるのでは。
- 参加者 町会のイメージ改革が必要。役割とか義務感では繋がりを継続することは難しいと思う。このミーティングにあった「うまくいっている自治会」の情報を共有することが大事だと思う。
- 参加者 方南町のウォータースライダーのような行事は街を活気づける行事として有用であると思った。

- 参加者 町内会や商店街の衰退をつぶさに見てきました。町会の行事の中で、合同で開催できるものなど、工夫を凝らすことが必要。
- 参加者 地域づくりというと、組織やその運営をどうするかということがベースになりがち。それよりも参加する人間が楽しいと思えて、人が繋がっていくことが大切。
- 参加者 引っ越してきたばかりなので、地域の繋がりが欲しいと思い参加しました。駄菓子屋敷の話が面白く、地域の課題と若者のやりたいことが一致しているのが活気ある地域活動の要因だと思った。
- 参加者 高齢者が保育園の送り迎えなどを手伝う地域活動など、高齢者の力をうまく使うボランティア制度を設けるのはいかがだろうか。子育て世代の方の助けにもなる。
- 参加者 マッチングアプリによる助け合いもいいアイデアであるが、災害時を考えると地域活動は隣同士の顔が見える関係で作り上げることも必要だと思う。
- 参加者 町会の情報発信、アプローチの仕方が大切だということがわかりました。無理なく、楽しく、少しでもいいから関わっていくことでよかったと思った。



- 参加者 サードプレイスとしての地域活動という言葉が心に響きました。第3の場所でそれぞれが何かができるようになったと感じることが重要。自分もいろいろと参加できればと思った。
- 参加者 覚悟して参加するのではなく、すると気軽に参加して続けていければいい。登壇して話をしてくれた方たちに感謝します。
- 参加者 地方出身の私としては、まず杉並を好きになることが最初で、次の段階として町会等の見学などをしたいです。



区長の感想（全体を）通して

仕事や家庭だけではなく地域のコミュニティをサードプレイス「第3の場所」としてとらえ、すでにコミュニティに参加している方やそのきっかけをつかもうとしている方から、掲示板から SNS の利用による情報の発信まで幅広い意見をいただきました。地域には町会自治会だけでなく、商店街や NPO、地域の会社など様々なグループ、また地域活動を行うプレイヤーがいます。それらの方々が地域活動を通じてお互いに繋がり、この町で暮らす居心地の良さを醸し出していること。またこのような居心地の良さが、困ったときや非常時の助け合いに繋がるという地域づくりのデザインをこのミーティングをとおしてしっかりと意識することができました。今後とも地域の主人公である皆様とともに地域づくりに邁進してまいります。

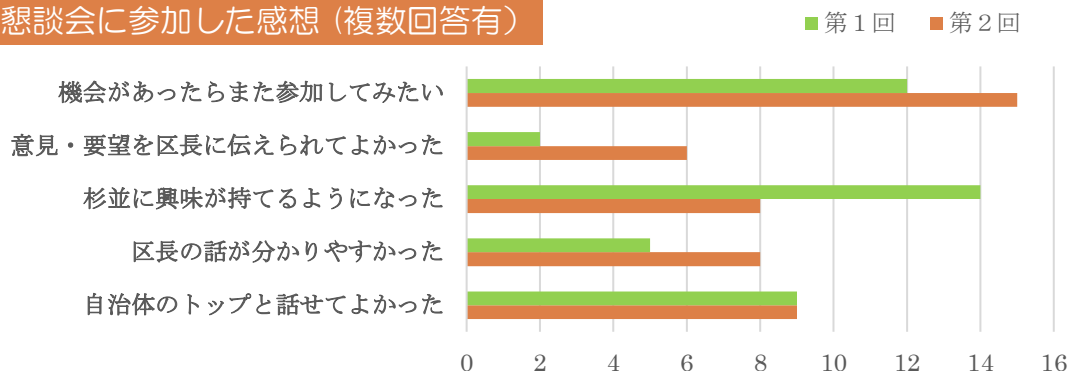


担当課から

＜地域課＞ このミーティングでは、実際に地域で活動されている方のお話をお伺いした上で、参加者の皆さんから地域との関わりなどについて、様々なご意見をいただきました。「〇〇することで地域に入っていけたら～」といった積極的なご意見も多くあり、地域の活動に関心を持たれている参加者の皆さんなりに、地域と関わるきっかけを掴んでもらったのかなと感じております。今後、すぎなみ地域コム・すぎなみプラスなどのポータルサイトやすぎなみ地域大学の講座等の更なる周知を図ることにより、より多くの方々が地域づくりについて関心を持っていただければと考えています。

＜企画課 公民連携担当＞ 公民連携担当では、地域の皆さんが行う様々な活動を支援し、繋がりを作ることを通して、地域をより良くする仕組みづくりにこれまで取り組んできました。本日も様々なお話がありましたが、地域の中で、子供の居場所や外国籍の方との共生、不登校の子のサポートなど、様々な困りごとをお聞かしています。こうした課題を、行政だけで解決していくことは難しいため、地域の皆さんと協働していく必要があります。そのためには、区としても、こういった取組を行っているかという情報をしっかりと発信し、皆さんから様々なアイデアをいただければと思っています。

懇談会に参加した感想（複数回答有）



令和 7 年 3 月 22 日開催 聴くオフ・ミーティング報告書

＜参加者＞ 区民 39 名、区長、地域課、企画課公民連携担当ほか

令和 7 年 5 月 編集・発行 総務部区政相談課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目 15 番 1 号 電話 03-3312-2111

